

「福井型教育の日本から世界への展開」

アジア・アフリカ・中東・日本の教師教育コラボレーション事業

2016年度—2020年度の活動を通して

事業の背景（対象国、現地のニーズ）

■ 対象国

➤ アジア(2017)

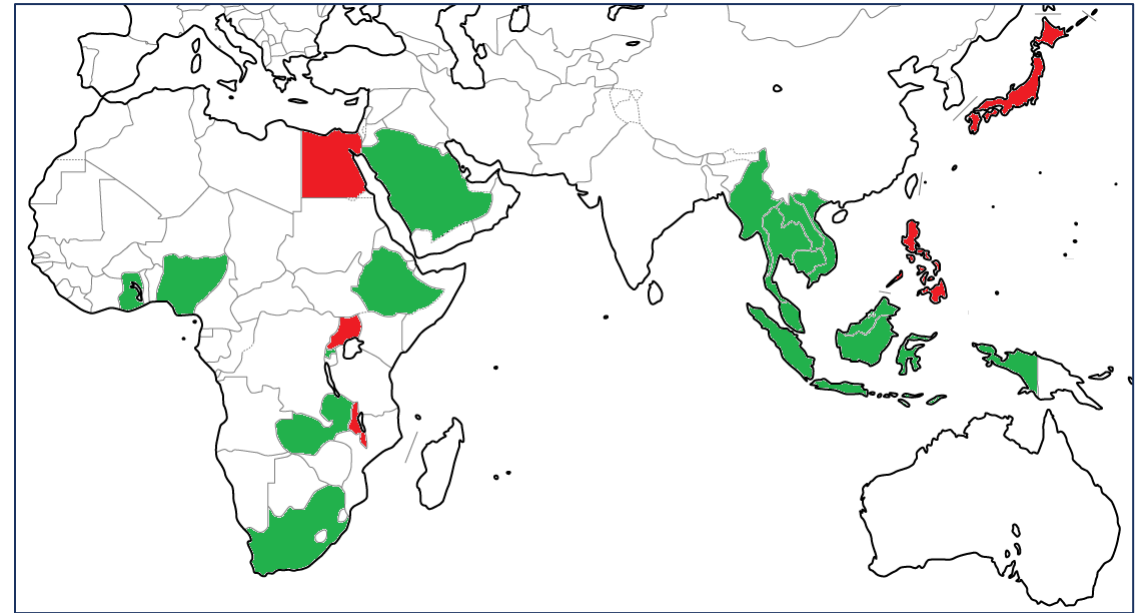
- **フィリピン(重点国)**, ブルネイ, カンボジア, インドネシア, ラオス, マレーシア, ミャンマー, シンガポール, タイ, ベトナム, 東ティモール

➤ アフリカ(2016-2020)

- **マラウイ(重点国)**, **ウガンダ(重点国)**, エチオピア, ナイジェリア, ザンビア, 南アフリカ, ガーナ, ルワンダ

➤ 中東(2018-2019)

- **エジプト(重点国)**, サウジアラビア



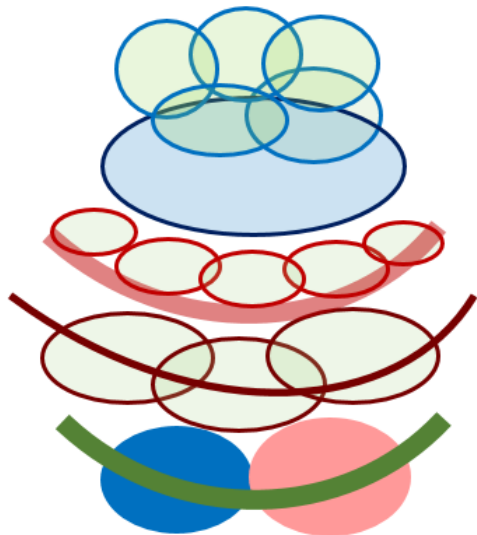
■ 現地のニーズ

- 日本の授業研究については、アジア・アフリカ・中東の国々が非常に高い関心を示しており、その導入が進められている。
- しかしながら、そこでは授業研究を支える教師の専門職学習コミュニティの形成が意図されておらず、研修体制を見直すことができていない。

事業の概要（目的、実施体制）

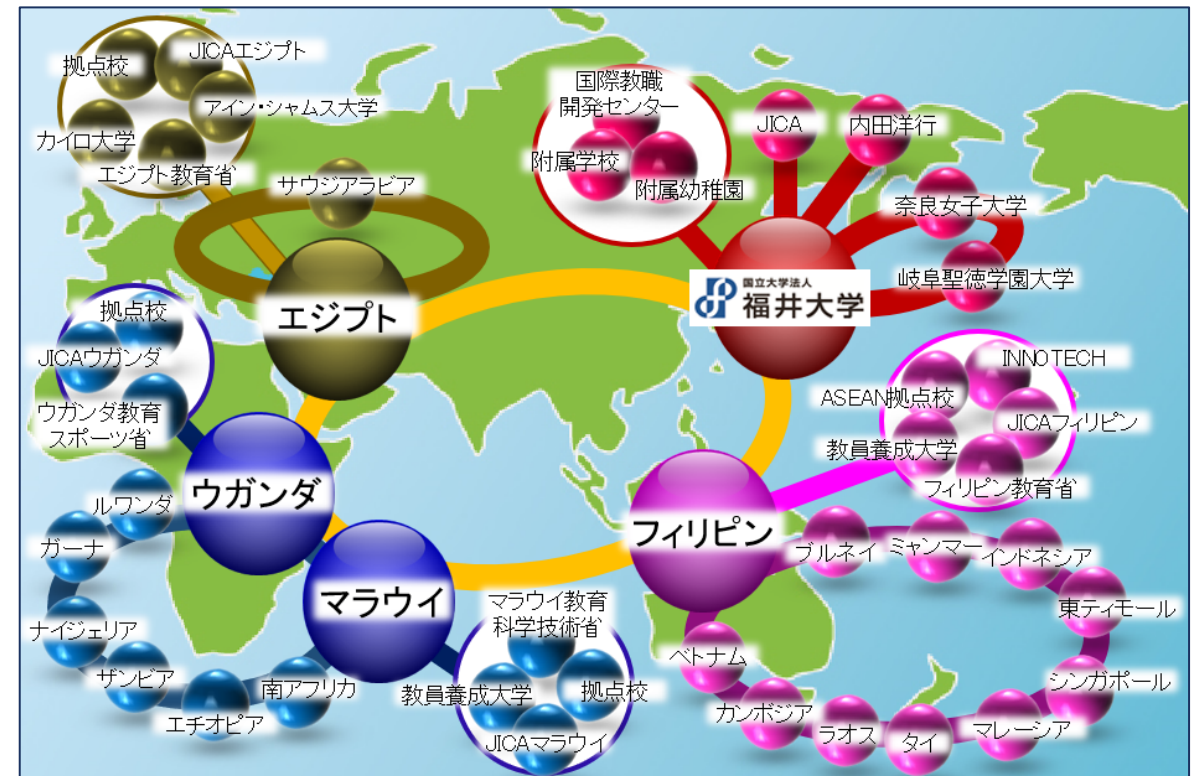
■ 目的

- 5重のコミュニティ・ネットワークの創造を通して、教員研修のシステム化を目指す



- ① **学校拠点の授業づくり**
学校・生徒の実情に即した授業開発、カリキュラム開発を学校拠点で進める
- ② **教師の協働**
授業づくりの研究・学習に教師が協働して取り組む
- ③ **コーディネーター協働**
教師の協働研究を支えるコーディネーターの協働組織の形成
- ④ **研修・協働ネット**
教職大学院・教育行政・国際協力機関等の協働によるコーディネーター支援
- ⑤ **アジア・アフリカ・中東と日本を結ぶ**
新しい国際協力モデルを構築

■ 実施体制



これまでの活動内容：アジア(フィリピン)

- 教師の専門職学習コミュニティ及び教育環境に関する実態把握
 - 東南アジア教育大臣機構教育改革センター(SEAMEO INNOTECH)、現地学校
- 教職開発拠点校における研究会
 - 授業づくり(2017) → 教師の協働(2018)
- フィリピンラウンドテーブルの実施
 - 授業づくり(2018) → 教師の協働(2019)

教育関係者74名と実践を交流



オンラインによる教員研修プラットフォームの調査



これまでの活動内容：アフリカ(マラウイ)

- 教師の専門職学習コミュニティ及び教育環境に関する実態把握
 - 教育科学技術省、教員教育開発局、ナリクレ教員養成大学、現地学校、JICAマラウイ
- 教職開発拠点校における研究会
 - 教師の協働(2017) → コーディネーターの協働(2018) → 研修・協働ネット(2019)
- アフリカラウンドテーブルの実施
 - 授業づくり(2017) → 教師の協働(2018) → コーディネーターの協働(2019)
- 現地大学との協働
 - オンラインで授業研究を協働実施(2020)

授業づくりに協働で取り組む



全国教員研修にて実施し、約300人が参加



これまでの活動内容：アフリカ(ウガンダ・アフリカ域内)

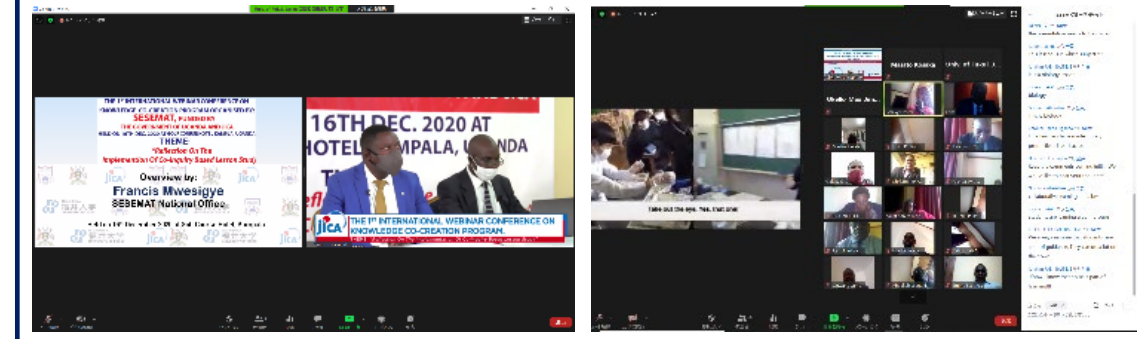
ウガンダ

- 教師の専門職学習コミュニティ及び教育環境に関する実態把握
 - 教育スポーツ省、現地学校、JICAウガンダ
- 教職開発拠点校における研究会
 - 教師の協働(2019) → コーディネーターの協働(2021: 予定)
- アフリカラウンドテーブルの実施
 - 授業づくり(2019) → 教師の協働(2021: 予定)

アフリカ域内

- アフリカ域内ラウンドテーブルの実施
 - 授業づくり(2020)

ウガンダ教育関係者と協働で実施し、
アフリカ4か国108人が参加



これまでの活動内容：中東(エジプト)

- 教師の専門職学習コミュニティ及び教育環境に関する実態把握
 - 教育・技術教育省、高等教育省、エジプト・日本学校(EJS)、JICAエジプト、在エジプト日本大使館
- 教職開発拠点校における研究会
 - 授業づくり(2018) → 教師の協働(2019)
- 中東ラウンドテーブルの実施
 - 授業づくり(2019)
- 現地大学との協働
 - オンライン協働授業をスタート(2020)

- － カイロ大学日本語翻訳コース3年生55名
- － 日本で現在展開されている新しい時代の学習への企図について探究する。
- － 新しい時代に求められる学習＝協働探究学習を自ら体験する。

教職開発拠点校での研修会



教育関係者約25名との実践交流



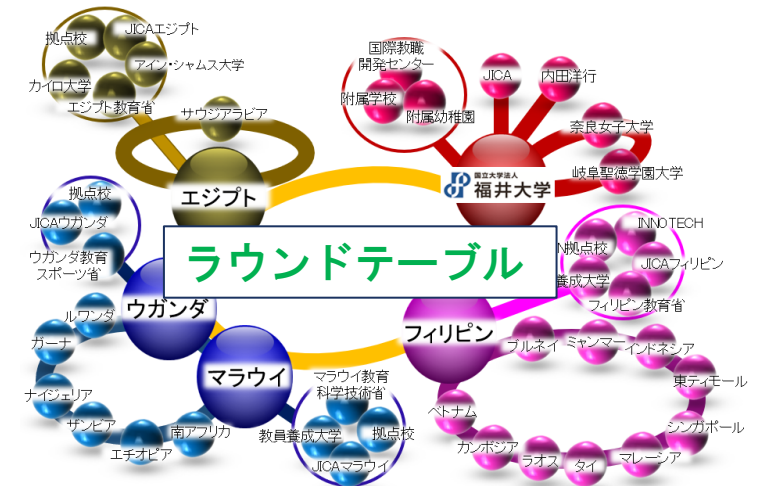
これまでの活動内容：アジア・アフリカ・中東・日本

- **アジア・アフリカ・中東・日本を結ぶ実践研究福井ラウンドテーブルを実施**

- 地域も職種も異なる実践者・実践研究者が集い、小グループに分かれて、互いの実践を交流し省察し、今後の展望を拓く
- 2017年から毎年2月と6月に実施、各回の参加者数は600人程度

■ 主な取り組み

- 2017年2月 初のアフリカからの参加者
- 2018年2月 アジアとアフリカの実践交流
- 2020年6月 初のオンライン開催 → 海外からの参加者の増加
- 2021年2月 国際展開に関するZoneを新設、英語にて実施、オンライン開催、アジア・アフリカ・中東・日本の実践交流



成果と教訓

■ 成果

- 5重のコミュニティ・ネットワークの創造を通じた教員研修のシステム化
 - 継続的に協働する体制が構築
 - Web会議システムを用いることによる活動の拡がり
 - 学内及び県内の教育関係者の国際化の推進

■ 教訓

- 既存の枠組みを活用することによる持続性の担保
- 先方の実践を尊重することによるオーナーシップの引き出し
- 同じ地域で継続して実施することによる、人間関係の構築と世代を超えた学び

今後の展望

- これまでの活動の継続
 - 5重のコミュニティ・ネットワークによる実践の支援
- 授業研究を中心とする国際教職開発プログラムの協働実施
 - フィリピン: デラサール大学
 - マラウイ: ナリクレ教員養成大学
 - ウガンダ: ブシテマ大学
 - エジプト: カイロ大学
- 福井型教育のブランド化

5年間を通じたEDU-PORTへの意見・今後への期待

■ Edu-Portへの意見

- 5年間のEdu-Portでの活動を通して、継続的に協働する体制が構築
- アジア・アフリカ・中東の国々も高く評価
- Edu-Port事業を通してプラットフォームが構築

■ Edu-Portへの期待

- Edu-Portの拠点の整備
 - Edu-Portの各実施機関が参加
 - 拠点を訪れれば日本の教育の様々な側面に出合え、各国のニーズに基づき組み合わせる

ご清聴ありがとうございました

福井大学 連合教職開発研究科 高阪将人

Email : kosaka@u-fukui.ac.jp